

# JA ふくしま未来 農畜産物販売品

## 販売高333億円までのあゆみ

《販売強化取組・農業振興（生産強化）の取組》

### みらいろプラン 第1期

・平成28年～平成30年 《1～3年目》

#### ・(H28) ふくしま未来農業協同組合 発足

4地区（福島・伊達・安達・そうま地区）が合併し、  
「未来への心をつなぐパートナー “農をはぐくみ 地域をつなぐ” を理念に掲げ、新たなJAとしてスタート。



※販売単価アップと生産コストダウンで農業所得10%アップ

「みらいろテン！ 運動」 販売・手取り強化



#### ・(H28) あんぽ工房みらい 完成 販売・生産強化

JA ふくしま未来の主力品目で、冬の貴重な収入源である、特産のあんぽ柿。JAとしてその火を絶やさぬよう、一大産地として強みを武器に、自社加工及び調製作業の農家支援による生産強化・特殊形態パッケージによる販売の強化を図る目的で導入されました。



#### ・(H28) きゅうり機械共選 初スタート 販売・生産強化

伊達地区で初めてきゅうり機械共選がスタートしました。桃のコンテナ出荷のように、収穫してすぐそのまま出荷できるので、農家の間では非常に労力軽減と体の負担が減ったと好評です。その浮いた余力を、きゅうり栽培の品質向上管理または規模拡大に繋がっております。きゅうり大産地の維持・拡大に大きく寄与しております。



### ・(H29) 常勤役員による「認定農業者等担い手訪問」開始

常勤役員による訪問活動を平成 29 年 1 月から開始し、以降毎年訪問を実施しています。当 J A の取り組み状況を説明し理解を得るとともに、J A に対する意見・要望を吸い上げ、創造的自己改革の実践、農家の所得向上、身近な J A につなげています。これまでに 1,375 件以上 (R5 末時点) の訪問をし、現場農家のご意見を頂戴し、これからの事業展開・農業振興へと活用致しております。



### ・(H29) ころんしよ市 (二本松) オープン 販売強化

直売所を起点に地産地消の理解を深め、より一層地域を活性化したい試みです。安達地区の農産物を中心に直接販売・購入してもらい地域振興と販売強化に。



### ・(H29) きゅうり販売高 44 億突破!

#### 夏秋きゅうり 日本一の産地へ!!

合併後、J A 独自の農業振興支援としてパイプハウスの新設の助成などを実施。

新規就農者をはじめ、既存農家の規模拡大に寄与。

合併後、3 年間で 20,403 戸が利用!!

パイプハウス導入について最も効果がでており、6 割の農家が 30%以上販売額が増加! 夏秋きゅうりだけでなく、半促成・抑制作型のきゅうり出荷も盛んにおこなわれております。



### ・(H29~) J G A P の取得促進: 原発事故による風評対策

JGAP 取得後、平成 30 年 7 月に桃初出荷。風評被害未だ残るも、認証取得によりスーパーの反応は変わりつつある。

令和 2 年度開催の東京オリンピック・パラリンピックにおいて東日本大震災からの復興の象徴として福島食材の提供を目指す取組からスタートした。

現在まで青果物 141 名、水稲 45 名 合計 186 名

657.41ha (県内トップ)。それら多数の農家に対応できる

よう、現在まで JGAP 指導可能職員数は 192 名にものぼり、一大 JGAP 産地となっております。

単価の面は勿論の事、販売面に置いて重要な、競合産地との売り場面積競争、産地の信頼度、産地 (J A) の知名度イメージアップにおいて、貢献している取組になります。

#### 販売強化



### ・(R1) 新原町カントリーエレベーター稼働 生産強化

そうま地区の復興のあゆみとして、東日本大震災による原子力発電所事故後の農業復興を目指す取組で、原町地区管内に水稲と大豆も乾燥調製可能な「新原町カントリーエレベーター」が稼働しました。農業再生や農業振興へ加速させる取組となります。



・(R2) **花卉機械共選場 完成** 販売・生産強化

管内の花弁振興、一元共選産地の形成に向け、出荷体制や受入体制を強化し、新たな産地拡大に向け取組開始。

同施設では選別や箱詰め作業を受託。労力負担が大きい収穫後の調整作業を軽減することで、栽培管理へ専念できる環境整備を図ります。

花卉出荷協議会を設立し、全地区共同出荷を開始しています。施設稼働により、共同出荷体制を整備し「JAふくしま未来の花」としてのブランド確立、生産・販売拡大を目指します。



・(R2) **桑折共選場 もも果実選別設備 新導入** 販売・生産強化

桑折共選場に新たな果実選別設備を導入しました。

1日当たりの出荷量は、20%増の1万4000箱まで可能に。消費者の需要の変化に応じるため、2～3kgの小箱などの多様な出荷形態にも対応できるようにしました。

より一層の一大産地としての主要品目モモの生産拡大と安定した品質での提供を目指します。



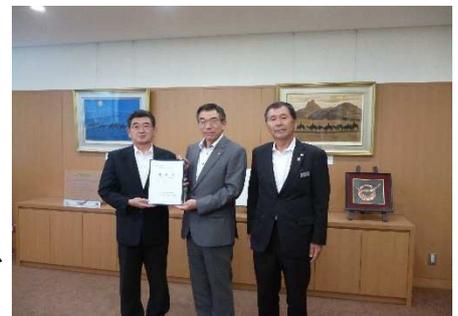
・(R2) **桃せん孔細菌病が多発。大きな被害に。**

緊急要請書・プロジェクト会議等対策を実施する。

モモ生産者の経営安定や産地の維持発展に向けて、

「モモ穿孔細菌病に関する緊急要請書」を各市町村・全農へ提出しました。モモ穿孔細菌病は、過去に例を見ない甚大な被害となっています。JA伊達地区管内を中心に多発、蔓延し、生産者の生産意欲の減退や生産量の激減が懸念されます。

そのため、薬剤経費負担予算措置や自然災害被害果実加工利用促進等対策事業の追加支援など3項目を要望しました。



・(R2) **飯館ライスセンターラック式倉庫** 生産強化

そうま地区の復興のあゆみとして、東日本大震災による原子力発電所事故後の農業復興を目指す取組で、飯館営農C管内にライスセンターと自動ラック式低温倉庫も完成しました。

自動ラック式低温倉庫の設置はJA管内で初めてです。



### ・(R3) 安達地区にきゅうり機械共選施設が完成 販売・生産強化

JA ふくしま未来「日本一の夏秋きゅうり産地」継続形成構想に基づき、全国有数の夏秋きゅうり産地である当管内の安達地区にきゅうり機械共選施設が完成。

きゅうり労働力の軽減や農業所得の増大、栽培面積の拡大など、JAの基幹品目であるきゅうりの生産振興を進めます。



### ・(R3) 大規模な凍霜害が JA ふくしま未来管内に発生

令和3年3月は、平均気温が県内24地点で統計開始以降最も高い値となったことに加え、4月も引き続き平年並から高温に経過しました。このため、野菜や果樹の生育は平年より大きく前進し、凍霜害の発生時期と低温抵抗性が弱い時期が重なったことから、令和3年4月の遅霜による被害は甚大となりました。被害面積は1,483ha、農作物の被害額は果樹を中心に27億9千万円におよび、記録が残る範囲では昭和56年5月31日に発生した71億6千万円に次ぐ被害となりました。



### ・(R3) 「1 営農センター 1 億円販売高アップ」を取組開始

#### 販売高 300 億円達成にむけて具体化検討

各地区・営農センターを拠点とした、出向く営農指導体制の構築を基軸に、組合員の営農技術向上、農業経営の発展、農業生産の拡大を図る。施肥、防除設計、資材提案、新資材の情報提供を、組合員の経営状況を踏まえて行い、購買品予約率の向上と供給高アップにつなげていく考えです。



・例えば福島地区では、果実、野菜、花きなどの各品目において担当指導員会議を定期的に行き、各自取り組み報告や戦略を協議しています。

・そうま地区などでは、蔬菜品目の生産拡大や主食用米作付けの維持、農産物直売所への新規出荷会員獲得などを具体的な取り組みとして進めていきました。

### ・(R3) 小高カントリーエレベーター 完成。

#### 農業復興のシンボルとして期待！ 生産強化

東日本大震災からの農業復興を目指すJAふくしま未来小高管内に、カントリーエレベーターが完成しました。

JA管内の原子力発電所事故による営農再開区域に米の貯蔵施設が完成するのは初めてです。



南相馬市小高区に完成した施設は、連続強制通風貯蔵乾燥方式の50ト角形貯蔵ビン50基備え、約400ha(水稻377.4ha、2359ト、大豆78ha、117ト)の処理が可能です。

営農再開区域の農業復興を担うシンボルとして、小高区の農業再開・活性に期待されております。

・(R4) 小高園芸団地（ギガ団地構想） 販売・生産強化

南相馬市に「小高園芸団地地域営農支援設備事業」の一環として設置いたしました。JA管内で水稻経営を再開する農家の作業負担軽減や新たに園芸作物に取り組む農家の生産意欲向上を目指し、新規就農者の研修場所として活用することで担い手育成にも力を入れます。



農業による更なる振興を目指し、地域住民の帰還と営農再開の一助となるよう、園芸所得増大を図り、キュウリを主とした県内最大の産地の形成を益々加速させます。

施設内には鉄骨ハウス5棟、パイプハウス38棟、集出荷複合施設1棟、機械倉庫1棟が建ち、稲育苗自動播種機やキュウリ選果機も設置してあります。

・(R4) 「のれん分け方式」による新規就農者・農業振興を実施開始

令和4年度から開始した新規就農者を就農定着までをサポートする取組がスタート。更なる新規農業者の増大のために関係者間で協力して取り組みを行う。研修、就農した新規就農者をサポートし、地域定着と農業振興、就農者の技術向上と収量増加を目指します。



・(R4) 全域避難・営農中断を余儀なくされた川俣町山木屋地区

震災後からの復興 山木屋ライスセンター 完成 生産強化

東日本大震災・原発事故により全域避難・営農中断を余儀なくされ、震災後からライスセンターは9年間閉鎖、その後解体されました。

川俣町とJAふくしま未来は同地区の復興・農業再生のため協議を続け、ついに令和4年3月にライスセンターが復活、

9月から稼働開始します。本格的な水稻の復旧、野菜や花卉などの園芸品目の生産拡大についても、川俣町と連携し一層の取り組みを加速させてまいります。



・(R4) あんぽ柿 100周年記念式典 実施

100周年記念式典の開催を機に、次の100年に続く産地の発展に向けて、また震災・原発事故の加工自粛から出荷再開し10年目。発祥の地として完全復活に向け、消費者へ美味しい『伊達のあんぽ柿』を広めつつ、届けられるよう今後も全力で取り組むことを皆で確認しました。



・(R4)『伊達のあんぽ柿』GI 認証 登録！

『伊達のあんぽ柿の日』 制定！ 販売強化

12月13日・1月13日・2月13日

「伊達のあんぽ柿」100周年を記念して、令和4年12月に記念式典の開催、記念誌の制作に加え、12月から2月の毎月13日を「伊達のあんぽ柿の日」として制定し、さらにはキャラクターを制作する等、幅広い年代への認知度向上に努めています。

GI 認証登録を期に他産地との差別化を図り、確固たるブランドを築き上げることで、伊達地域の活性化に寄与し、地域財産として保護していきます。さらには、国内、輸出を含めた国外も視野に入れ販路の拡大を目指します。



・(R5) そうま日立木カントリーエレベーター竣工式 生産強化

東日本大震災からの農業復興を目指すJAふくしま未来  
そうま地区の相馬市に、県内最大の穀類乾燥調整貯蔵施設  
JAそうま日立木カントリーエレベーター(CE)が完成。

穀類3900トンを処理できる東北でも有数の規模で、施設は南相馬市を中心にそうま地区の米を運び入れます。火力を使用しない除湿設備で、自然乾燥に近い状態で食味を保ちます。

延床面積は合計で4913.66平方メートル。総事業費約43億1100万円で、農林水産省と復興庁の「福島県高付加価値産地展開支援事業」を活用して建設しました。



・(R5) ふくしま桃の日 制定！ 販売強化

7月13日・7月26日・8月8日

管内の桑折町の桃「あかつき」は30年連続で「献上桃」選定されています。主力品種「あかつき」の旧系統名が「れ-13」であることから、「ふくしまの桃」がおいしい時期の7月13日を起点として13日周期の3日を記念日に。桃の大産地として県内外へPR活動に力を入れます。



・(R6) 販売品販売高300億円の達成に向けて

青果物・花き共販推進会議 販売強化

令和5年度青果物・花き共販推進会議を、ウェディングエルティで開催しました。販売品販売高300億円達成の目標に向け、販売方針、生育状況、販売状況など、出席者一同意識統一を図りました。

他産地では真似できない『JAふくしま未来』にしかない

アイテムや商品を付加価値をつけ、また、現状これだけ経費として掛かっている事をグラフで見える化・問題提起し、共通認識を持って、販売してもらう事で価格転嫁対策を広く周知し、今後取り組んで参ります。



### ・(R6)「ふくしま夏秋きゅうりの日」制定 販売強化

「ふくしま夏秋きゅうりの日」の登録認証を受けて、7月1日、8月1日、9月1日の3日間を記念日に制定しました。夏秋きゅうりの販売高が令和6年度に日本一となったことやきゅうりの形が「1」を連想させること、夏秋きゅうりの収穫期が毎年7月から9月までであることから記念日としました。



J Aの令和5年度のきゅうりの販売高は約44億8000万円を記録。J A独自の取り組み「のれん分け方式」などを活用し新規就農者の育成や機械共選施設の整備を図り、きゅうり一大産地の形成を目指します。

### ・(R6) 震災後、販売額 初の300億円超へ

JA 福島未来の令和6年度（2024年3月～2025年2月）の農畜産物販売額は300億円超えが確実となりました。

平成28（2016）年3月のJA 福島未来発足後、初めての300億円超えとなります。



品目別の販売額は主力のモモが約81億円、キュウリは約52億円となり、ともに過去最高を更新しております。また、その他の果物や野菜、コメ、花卉（かき）も例年並みか例年以上の品目が多く、発足以来目標としてきた300億円に到達し、本日報告会を実施出来る運びとなりました。残り半月につきましても、主力のあんぼ柿による販売額の積み上げを行って参ります。

### ・(R6) 土壌分析センター 稼働開始 生産強化

高騰する肥料コストを低減と環境調和型農業の実践のため、JA 福島未来は、独自の土壌分析センターを伊達市に設立。「みどりの食料システム戦略」の実践へ向けて本格稼働します。東京農業大学の後藤逸男名誉教授監修の下、専任職員を配置して管内の土壌を分析。分析結果を元に施肥を見直し、作物の品質向上や施肥コスト削減が期待でき、化学肥料の低減も目指します。



加えて、優良生産農地の土壌分析データを蓄積・分析することで地域に適合した土づくり指導につなげます。農業生産の維持・拡大を目的とし、持続可能な農業を目指していきます。

### ・(R6) 次世代農業者組織「アグリードみらい」設立総会 生産強化

新たに新規就農者等次世代農業者組織「アグリードみらい」を設立。農業者の高齢化や後継者不足が課題となる中、次世代を担う若手農業者に相互交流の場や、農業経営、税務などを学べる機会を提供し、農業への意欲と地域への定着を図ります。



入会対象は就農から5年未満の新規就農者、親元就農者、定年帰農者の組合員および研修生などの就農予定者。

各種説明会や研修会・交流会、先輩農家への視察研修などを計画しています。現在の会員数は約50人。管内の入会可能な新規就農者は270人程おり、J Aは入会を呼びかけています。

・(R6) 園芸作物集出荷団地整備事業

建設工事 安全祈願祭 販売・生産強化

南相馬市の園芸農業の復興を後押しする、園芸作物集出荷団地整備事業建設工事の安全祈願祭を南相馬市の現地で行われました。

同施設は南相馬市原町区上高平字柳町地に建設。

施設内では、ブロッコリーや長ネギ、小菊などの選別ラインを備えた集出荷貯蔵（選果場、予冷库、事務室）、卸売市場、野菜のカットや冷凍を行う農産物加工施設の3施設が備わる予定です。高効率な流通拠点の整備により、農業者の所得と生産環境・生産意欲を向上が期待されます。また、高品質で高付加価値な流通・加工機能を備えた施設の整備により、市内外の消費者へ豊かな食生活を提供します。

令和8年3月の完成を予定しています。



※南相馬市園芸作物集出荷団地整備 基本計画（素案）より

・(R7) 福島地区 キュウリ選果設備竣工式 生産強化

全国有数の夏秋キュウリ産地であるJAふくしま未来は27日、福島市に1月完成したキュウリ選果設備の竣工式を行いました。

新規栽培者増加や生産農家の労力軽減がされることから、管理作業の向上による収穫量や品質の向上における所得額の増加を目指す取り組みの一環です。

稼働施設は、キュウリの外観を検査し選果、選別したキュウリに管内で初めて導入する鮮度保持装置により近赤外光を照射。キュウリの鮮度を5日程度長く保持することが見込まれる。1日最大約1500箱（1箱5kg）の出荷が可能です。

同地区管内での令和6年度出荷実績は約1676ト。令和7年度は機械共選導入により出荷数量1700トを計画しています。



## ・(R7) 販売品販売高 333 億円突破記念記者会見

令和6年度の販売品販売高が333億円を突破しました。これは平成28年度の合併以来、過去最高の金額となります。主な要因は、災害がなかったこと、資材価格高騰に対する適正価格の市場要請、時代に沿った農業振興に取り組んできた成果が挙げられます。

特に米穀部門では、令和の米騒動による価格高騰と、高温対策に尽力したことで1等米比率が向上したことが主な要因。

当JAは、令和7年度で合併10周年を迎え、合併当初から目指していた販売高300億円を突破しました。これは、東日本大震災前の10年度に旧4JAが合わせて約368億円を記録していたことを考えると、復興に向けた確実な進展を示しています。



## ・(R7) 東部広域共選場キュウリ選果設備新設工事竣工・稼働式 生産強化

日本一の夏秋キュウリ産地を抱える当JAは14日、伊達市の東部広域共選場でキュウリ選果設備増設工事竣工稼働式を行いました。今年度から1時間に100コンテナ（1コンテナ10㌧）を処理できる設備を1系列増設し、全3系列で稼働します。

加えて、全自動ポリ袋装着装置を導入したことで、これまで手作業で装着していた鮮度パックの作業負担を軽減。処理量の増加と作業の効率化により新鮮な状態でキュウリを出荷することができます。令和元年度から6年度まで管内の新規キュウリ生産者が185人増え、今後も栽培面積拡大と販売高を確保し、生産者の意欲向上と所得向上を図るって参ります。



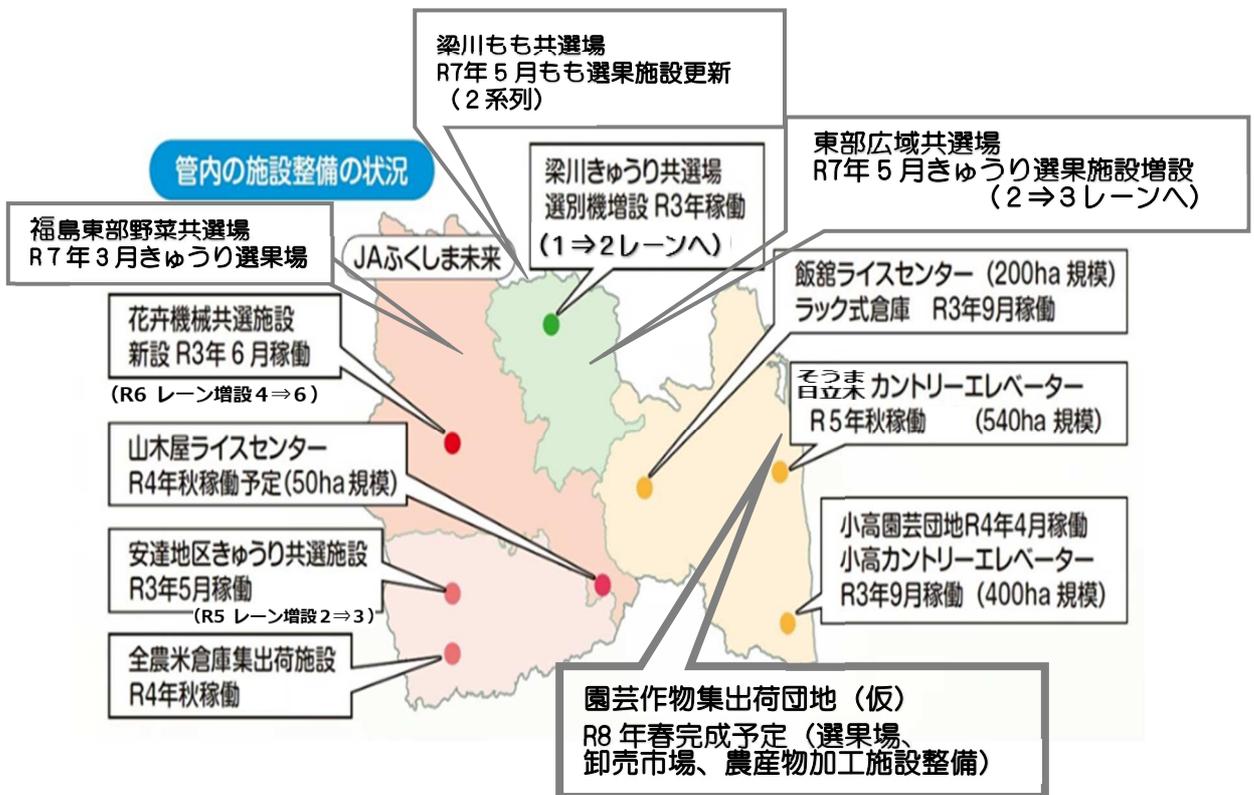
## ・(R7) 梁川共選場モモ選果設備新設工事竣工・稼働式 生産強化

伊達市にある当JAの梁川共選場で、桃の選果設備新設竣工稼働式が14日に行われました。新設した設備は、現在の市場ニーズに対応する小型形態販売への対応や選果選別作業における労働力確保問題などを解決するために整備されました。

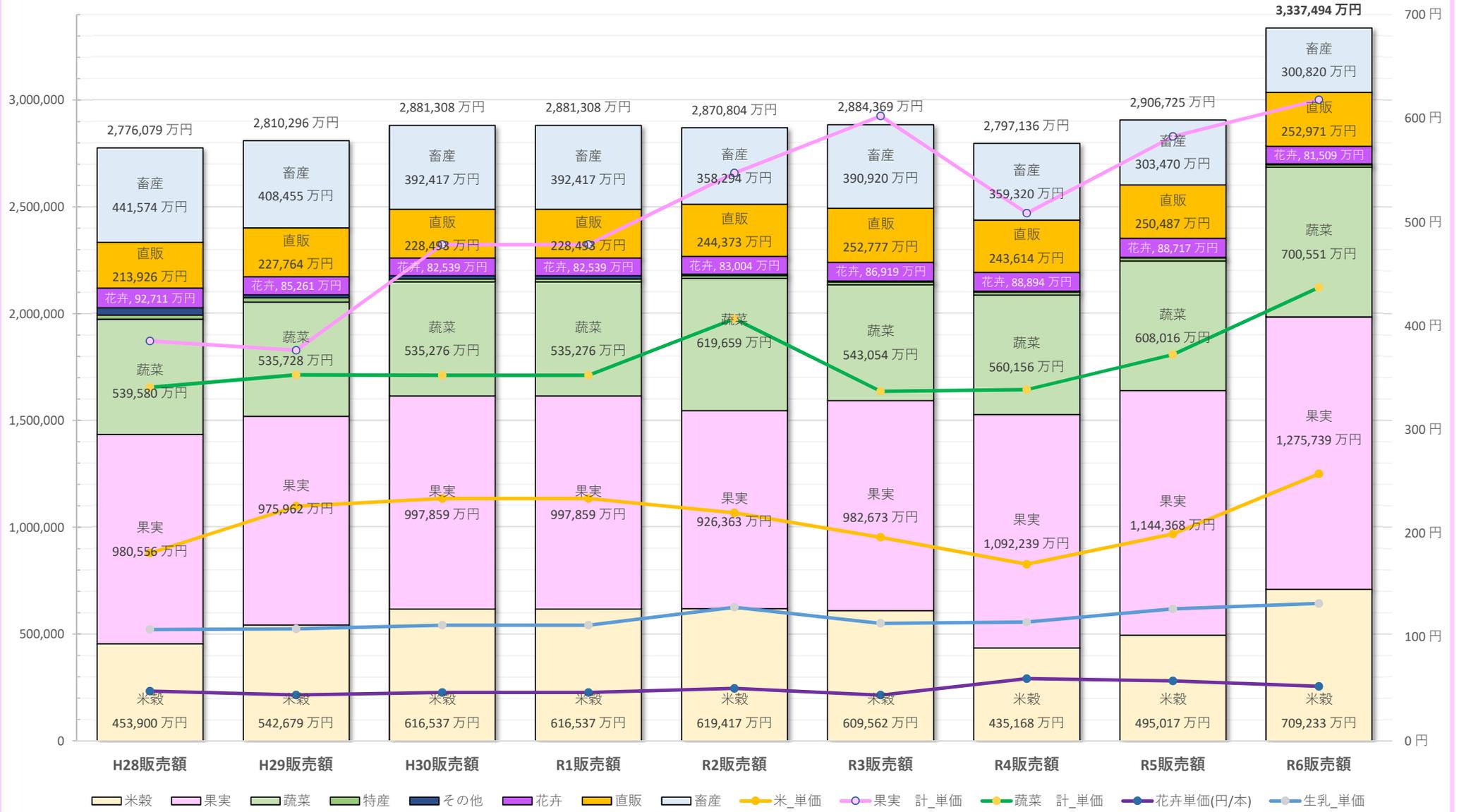
平成19年度より稼働した旧設備は、3系列で年間1000㌧の処理を可能にしてきました。新設備は、2系列に縮小したが、設備の機能性向上に加え、バーコードを利用した荷受け作業の軽減、排果作業の時間短縮と作業軽減により設備全体が効率化。年間1200㌧の処理量を計画しています。



◆みらいろプラン 主な農業関連施設の整備状況  
 【令和元年度以降着手分と今後（R7~）】



# ふくしま未来農業協同組合 合併誕生から現在までの 販売額の軌跡



# 1 販売単価向上（再生産価格確保）対策

## 生産費調査に基づく再生産価格の要請

JAふくしま未来では、経営実態の把握と価格転嫁に結びついた農産物価格の実現に向け独自に生産費調査を実施いたしました。

調査の結果、生活費としての農業所得の確保どころか、機械更新費用や営農を続けるための費用が、品目・品種により確保できない方がいる現状です。

現在の価格高騰の実状を踏まえた経営モデル農家の事例を紹介いたします。

- 歯止めがきかない物価高騰の影響も受け、農家の負担も限界に達しつつあり、現状を踏まえた再生産価格を市場等へ要請し、持続可能な農業（地域農業の振興、食料安全保障の確立、食料供給の安定化、新規就農者の定着、農村の活性化）のために取り組んでまいります。

※品目ごとの販売対策については、販売生産振興及び販売戦略を参照

◎再生産要請価格 **もも:700円** **きゅうり:410円**



## ■現状の一例

【水稲・もも・きゅうり農家】 ※1 吹き出しは農家の現状販売単価

※個々によって減価償却費の内容・専従者給与は大きく異なりますので、今回は除いて算出しております

◆水稲	◆もも	◆きゅうり
管内作付平均120a	管内作付平均62.8a	管内作付平均15.8a
<b>R5年度 生産費調査</b> 水稲 1,800a 555kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 1,670 ※1 2,200 手取(粗) 530 220円/kg (2.9万/10a) <small>※稲刈り・肥料用米あり</small>	<b>R5年度 生産費調査</b> もも 270a 1,265kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 1,200 ※1 2,720 手取(粗) 1,520 641円/kg (56.3万/10a)	<b>R5年度 生産費調査</b> きゅうり 38a 8,911kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 960 ※1 1,380 手取(粗) 420 407円/kg (110.5万/10a)
<b>R5年度 生産費調査</b> 水稲 500a 508kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 250 ※1 600 手取(粗) 350 302円/kg (7.0万/10a) <small>※稲刈り・肥料用米あり</small>	<b>R5年度 生産費調査</b> もも 100a 1,857kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 720 ※1 1,260 手取(粗) 540 654円/kg (54.0万/10a)	<b>R5年度 生産費調査</b> きゅうり 25a 10,700kg/10a 経営全体 単位(万円) 売上(粗) 費用 +雑収入 410 ※1 980 手取(粗) 570 317円/kg (228.0万/10a)

※1 吹き出しは農家の現状販売単価

【あんぼ柿・なし・花卉農家】

※個々によって減価償却費の内容・専従者給与は大きく異なりますので、今回は除いて算出しております

◆あんぼ柿		◆なし		◆花卉			
管内作付平均38.6a		管内作付平均65.9a		管内作付平均44.4a			
R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査			
あんぼ柿 230a		なし 105a		花卉 60a			
306.5kg/10a 【製品重量】		2,232kg/10a		26,798本/10a			
経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)		
売上(粗)	費用	売上(粗)	費用	売上(粗)	費用		
+雑収入 850		+雑収入 650		+雑収入 560			
※1	1,200	手取(粗)	350	※1	800	手取(粗)	240
1,719円/kg (15.2万/10a)		430円/kg (33.3万/10a)		49円/本 (40.0万/10a)			
大規模		大規模		大規模			
R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査			
あんぼ柿 20a		なし 40a		花卉 45a			
665.5kg/10a 【製品重量】		2,735kg/10a		37,737本/10a			
経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)		
売上(粗)	費用	売上(粗)	費用	売上(粗)	費用		
+雑収入 190		+雑収入 260		+雑収入 520			
※1	280	手取(粗)	90	※1	950	手取(粗)	430
1,550円/kg (45.0万/10a)		348円/kg (35.0万/10a)		55円/本 (95.6万/10a)			
中規模		中規模		中規模			

※1 吹き出しは農家の現状販売単価

【畜産】

※個々によって減価償却費の内容・専従者給与は大きく異なりますので、今回は除いて算出しております

◆子牛(繁殖)		◆肉牛(肥育)		◆酪農(生乳)			
R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査			
繁殖 25頭		肥育 33頭		酪農 33頭			
31頭飼育		50頭飼育					
経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)		
売上(粗)	費用	売上(粗)	費用	売上(粗)	費用		
+雑収入 1,400		+雑収入 4,400		+雑収入 3,380			
※1	1,650	手取(粗)	250	※1	4,580	手取(粗)	1,200
55.7万円/頭 (10.0万/頭)		116.6万円/頭 (18.2万/頭)		122.0万円/頭 (36.4万/頭)			
大規模		大規模		大規模			
R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査		R5年度 生産費調査			
繁殖 13頭		肥育 16頭		酪農 14頭			
18頭飼育		20頭飼育					
経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)	経営全体	単位(万円)		
売上(粗)	費用	売上(粗)	費用	売上(粗)	費用		
+雑収入 1,000		+雑収入 1,730		+雑収入 1,480			
※1	1,100	手取(粗)	100	※1	1,620	手取(粗)	140
68.0万円/頭 (7.7万/頭)		94.8万円/頭 (13.8万/頭)		103.4万円/頭 (10.0万/頭)			
中規模		中規模		中規模			

※1 吹き出しは農家の現状販売単価